





### 3. 警告・注意表示等の基準

この取扱説明書の中で使用している警告・注意表示等の基準は、下表の通りです。

 <b>警告</b>	取り扱いを誤った場合に、取扱関係者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定される場合、または警報機能の一部に重大な悪影響を及ぼす可能性がある場合。
 <b>注意</b>	取り扱いを誤った場合に、取扱関係者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定される場合、または警報機能に悪影響を及ぼす可能性がある場合。

### 4. 警報器についての主な注意事項

#### ⚠ 警告

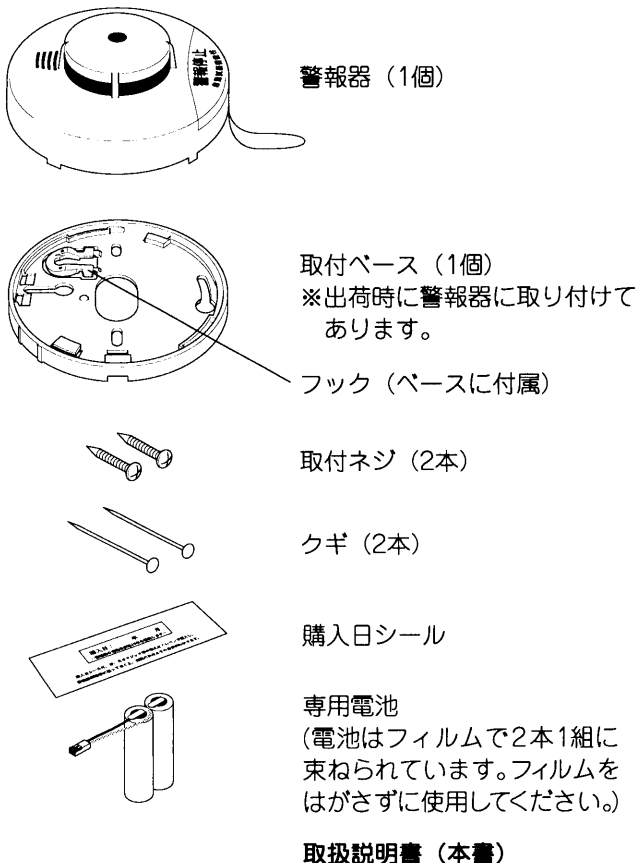
- 本警報器は火災で発生する煙を音で知らせるもので、消火装置や火災防止器ではありません。火災には十分ご注意ください。
- この警報器は警報音をその場で発しますので、日頃、人のいない部屋に設置する場合は、警報音が聞こえるかどうか確認してから取り付けてください。また、次のような場合は警報音が聞こえないことがありますので、注意してください。
  - ・就寝中、薬を服用していた場合
  - ・酒を飲んで就寝した場合
  - ・ドアを閉めている場合
  - ・交通、ステレオ、ラジオ、テレビ、エアコンなどの騒音が大きい場合
- この警報器は煙をキャッチして警報を発しますが、次のような場合は火災を感知できないことがあります。
  - ・火のまわりの早い火災
  - ・爆発的な火災
  - ・ガス漏れ、薬品火災、電気火災など
  - ・煙の発生しない火災
- 本警報器は屋内専用です。屋外でのご使用はおやめください。また、屋内でも水のかかる場所や水蒸気の発生する場所にも取り付けしないでください。
- 電池切れの場合は警報音は鳴りません。
- 多量のガスが発生する殺虫剤などを使用する場合は、誤報を防ぐため警報器を取りはずしてください。
- 殺虫スプレーなどを警報器に直接かけないでください。
- 警報器のすき間に針金などを差し込まないでください。

#### ⚠ 注意

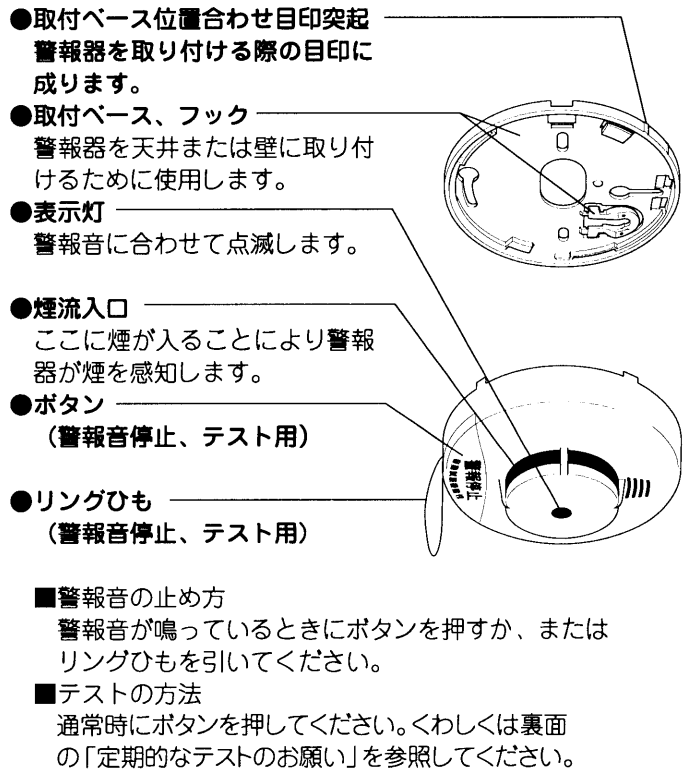
警報器は精密に調整されていますので、分解しないでください。

### 5. 商品のご確認

次のものが揃っていることを確認してください。



### 6. 各部の名称と働き

- 
- 取付ベース位置合わせ目印突起  
警報器を取り付ける際の目印に成ります。
  - 取付ベース、フック  
警報器を天井または壁に取り付けるために使用します。
  - 表示灯  
警報音に合わせて点滅します。
  - 煙流入口  
ここに煙が入ることにより警報器が煙を感知します。
  - ボタン  
(警報音停止、テスト用)
  - リングひも  
(警報音停止、テスト用)
  - 警報音の止め方  
警報音が鳴っているときにボタンを押すか、またはリングひもを引いてください。
  - テストの方法  
通常時にボタンを押してください。くわしくは裏面の「定期的なテストのお願い」を参照してください。


#### 注意



リングひもを引く際、必要以上の力で強く引き続けしないでください。警報器が壊れたり、リングひもが切れるおそれがあります。

## 7. 警報器の作動

煙を感知すると「ピーッ!、ピーッ!」と警報音が鳴り、合わせて機器中央部の表示灯が点滅して異常をお知らせします。

<b>注 意</b>	警報音を発した時、電池を外さないでください。ボタンを2秒以上押すかまたはリングひもを引くと、警報音は止まります。
	煙流入口に煙が残っている場合は約5分後に再び警報音が鳴ります。換気等を行うことにより警報音は自動的に止まります。

## 8. 自動試験機能と警報①

自動試験機能とは、機器が正常に動作しているかを自己診断する機能のことを言います。機器が故障した場合や、電池の容量が少なくなってきた際に、警報音と表示灯で状態をお知らせします。

### ①故障警報

煙の検出部に異常が発生し、煙が正常に検出できなくなった事を自動的にお知らせする機能です。

■機器の故障を検出すると、故障検出モードに入り約8秒おきに（ピッピッピッ）と言う故障警報音と表示灯の点滅により正常に機能していないことをお知らせします。


※故障警報音が鳴った際は、すみやかに買い上げの販売店にご相談いただき、警報器を交換してください。

故障状態では、正常に火災を感知できません。

●故障検出モード時に警報停止ボタンを2秒以上押すかリングひもを引くと、故障警報音（ピッピッピッ）が鳴り約12時間故障警報を停止させることができます。

夜間や早朝など、すみやかに警報器の交換ができない場合にご利用ください。

※但し、警報停止をしている間は火災を感知できません。

<b>警 告</b>	機器が発する故障警報は、機器が正常に火災の検知が出来ない状態にあることを意味します。警報停止をする機能は有りますが、故障警報中（停止中含む）に火災が発生した場合、火災を感知できず危険な状態が生じる事が想定されます。速やかに機器を交換してください。
	

## 9. 自動試験機能と警報②

### ②電池切れ警報

電池電圧が低下した場合、自動的に電池切れをお知らせする機能です。

■電池電圧の低下を検出すると、電池低下警報モードに入り約30秒おきに（ピッ）という電池切れ警報音と表示灯の点滅により電池がなくなってきたことをお知らせします。

※電池切れ警報が鳴った際は、すみやかに買い上げの販売店にご相談いただき、新しい警報器もしくは専用電池と交換してください。

●電池低下警報モード時に警報停止ボタンを2秒以上押すか、リングひもを引くと、電池切れ警報音（ピッ）が鳴り、約12時間電池切れ警報を停止させることができます。夜間や早朝など、すみやかに警報器の交換、もしくは電池の交換ができない場合にご利用ください。

※電池切れ警報を停止させている場合も火災の検出はしています。

警報器本体の交換目安はご購入後約10年です。

電池切れ警報が鳴った際は、機器に貼り付けられた「購入日シール」をご確認いただき、買い上げの販売店にご相談ください。購入日から約10年経過している場合は新しい警報器への交換を推奨いたします。

電池を交換する場合は専用リチウム電池をご使用ください。

※専用リチウム電池部品コード：18173007

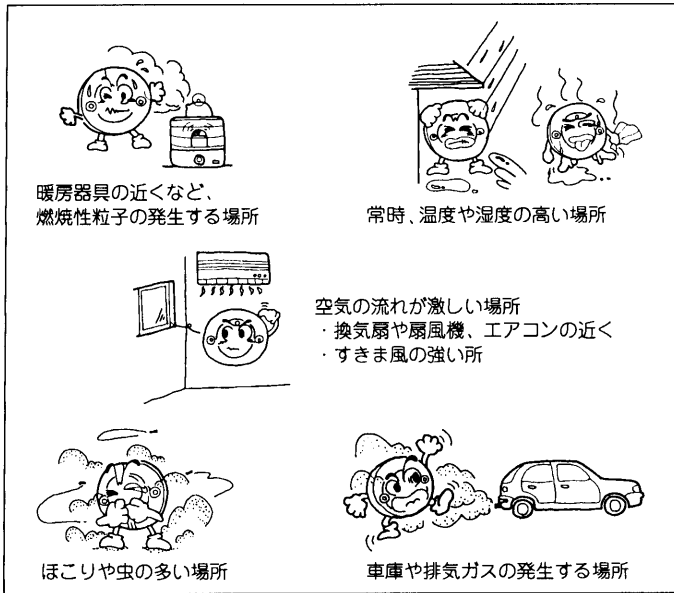
## 10. 故障かな?と思ったら

警報器の症状とその原因、対処について下表に示します。

下記の対処を行っても直らない場合は、お求めの販売店までご連絡ください。

症 状	原 因	対 処
30秒間隔で警報音「ピッ」が鳴り、合わせて表示灯が点滅する。	電池の電圧が低下しています。	新しい警報器と交換してください。 または専用リチウム電池を交換してください。
8秒間隔で警報音「ピッピッピッ」が鳴り、合わせて表示灯が点滅する。	警報器の故障です。	新しい警報器と交換してください。
テストボタンを押しても警報音が鳴らない。 (またはリングひもを引いても同様)	電池が接続されていない。 ----- 警報音停止状態(煙を感知してから約5分間)になっている。	「15.警報器を取り付ける前に②」を参考に、正しく電池を接続してください。 ----- 5分後、再度テストボタンを押してください。
火災でないのに警報音が鳴り、合わせて表示灯が点滅する。	火災以外の煙等(ホコリ、殺虫剤、調理による煙、湯気)を警報器がキャッチした。	警報器内の煙等がなくなるまでお待ちください。また、火災以外の煙で警報音が多発する場合は取り付け場所を変えてください。

## 11. 次のような場所には取り付けないでください



- ・警報器は0℃～40℃の温度範囲内の場所に取り付けてください。
- ・居室の場合は各部屋の中心になる位置に取り付けると、より効果的です。

### 注意

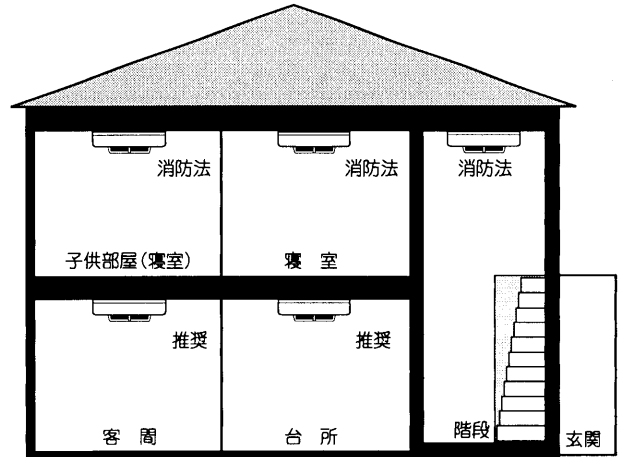
警報器は必ず正しい取り付け場所に取り付けてください。

上図のような場所に取り付けた場合、誤作動の原因になり、正常に火災を警報できません。

## 12. 取り付ける部屋について

消防法では、「全ての寝室」と「階段」に設置することが義務付けられています。

その他の部屋（客間や台所）については、各市町村の条例にもとづいて取り付けてください。



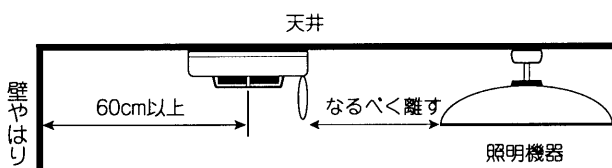
(例) 消防法による設置義務のある部屋

- ・二階建ての場合は、二階の階段の降り口の天井または天井に近い壁に取り付けると、より効果的です。

## 13. 警報器の取り付け場所

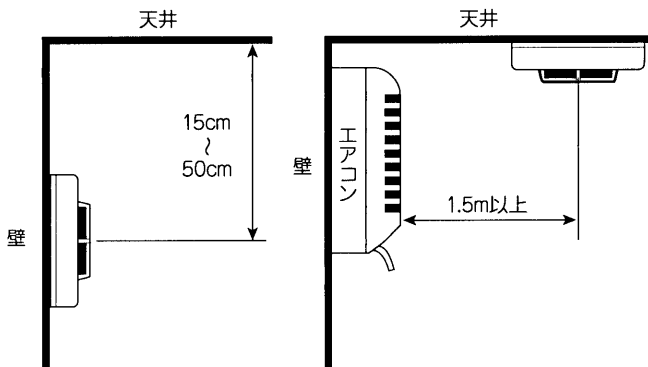
- ・警報器のボタンが操作しやすい位置に取り付けてください。

◎天井面は壁や角から60cm以上離す。



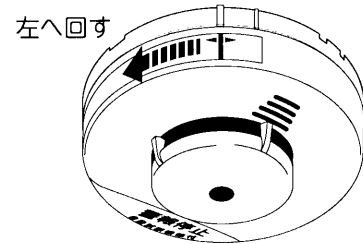
◎壁面は天井面下15cmから50cmまでの範囲

◎換気扇やエアコンなどの吹き出し口から1.5m以上離す。



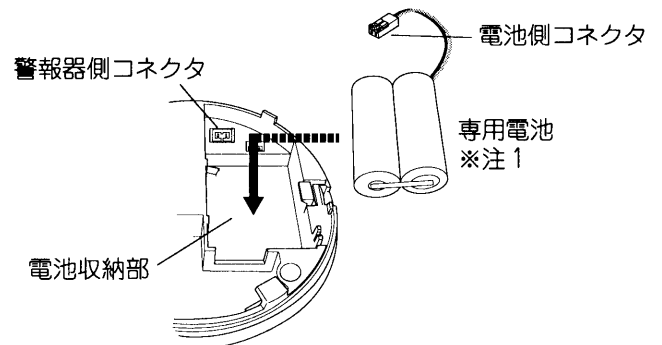
## 14. 警報器を取り付ける前に①

- 警報器と取付ベースを外します。
- ・警報器を左に回して取り外してください。



- 電池を取り付けます。

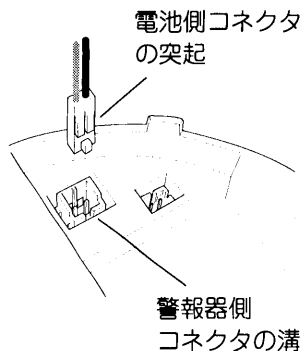
- ・警報器の裏面にある電池収納部に電池を入れてください。(電池はフィルムで2本1組に束ねられています。フィルムをはがさず使用してください。)



注1)  
電池の外周に巻いてある透明フィルムはラッピングフィルムではありません。はがさずそのままご使用ください。

## 15. 警報器を取り付ける前に②

・電池側コネクタと警報器  
電池収納部の横にある警  
報器側コネクタを正しく  
接続してください。



右図のように電池側コネクタの突起と警報器側コネクタの溝をあわせて、しっかりと接続し電池収納部に電池を納めます。

●電池を正しく収納し、コネクタをしっかりと接続してください。正しく接続されていない場合、警報器が作動せず、警報音が鳴りません。(電池を取り付けたら10秒以上経過後にテストを行って作動確認をしてください。)

●同梱の〔購入日シール〕に、マジック等の消えにくいペンでご購入日を記入し、警報器側面などに貼っておくと、警報器交換のおおよその目安がわかります。(警報器交換の目安は約10年です)

<b>警告</b>	電池を火の中に入れてたり、加熱、分解、改造しないでください。絶縁物やガス排出弁などを損傷させたりして、電池を漏液、発熱、破裂させる危険があります。

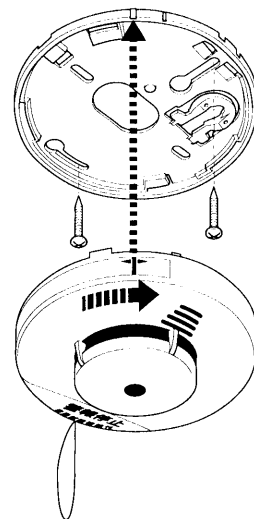
## 16. 警報器の取り付け方法①

次の手順にしたがって警報器を取り付けてください。

●天井に取り付ける時

手順①  
天井面の構造体(下地)が通っている場所に、取付ネジで取付ベースをしっかりと固定してください。  
(※必要以上の力で締め付けないでください。またベースには1.1N・m以上の力が加わらない様に気をつけてください。)

手順②  
取付ベースの位置合せと警報器の位置合せが取り付け時に直線になる様に警報器の底面部を取付ベースに当て、警報器が止まるまで右に回してください。



<b>警告</b>	警報器の取り付けは、安定した台に乗って作業を行ってください。転倒・落下などの危険があります。

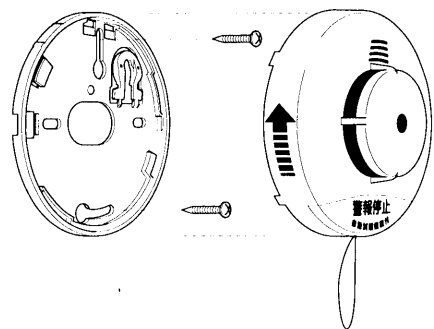
※埋込アダプタ(別売)を使用し、埋込取り付けもできます。

## 17. 警報器の取り付け方法②

●壁に取り付ける時-1

手順①  
壁面の柱が通っている場所に、取付ベース内側にある表の凸上(U.P)が上側に来る様に取付ネジで取付ベースをしっかりと固定してください。  
(※必要以上の力で締め付けないでください。またベースには1.1N・m以上の力が加わらない様に気をつけてください。)

手順②  
取付ベースの位置合せと、警報器の位置合せが直線上になる様に合わせ、警報器が止まるまで右に回してください。



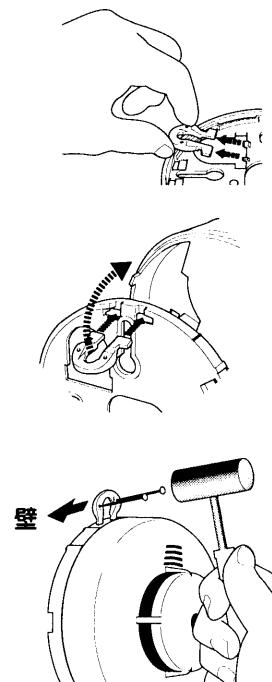
<b>警告</b>	取付の際は、壁装材に適したネジを用いて適切な力で取り付けてください。リングひもを引いた時などに機器が落下する危険があります。

## 18. 警報器の取り付け方法③

●壁に取り付ける時-2

手順①  
ベースを警報器からはずし、図のようにベースからフックを取ってフックの足をベースの外側から差し込んだ状態で、ベースと警報器を取り付けます。

手順②  
フックのクギ穴から付属のクギを通し、壁面の柱が通っている場所に2ヶ所打ちつけてください。



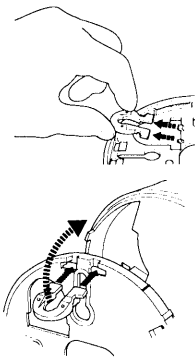
<b>注意</b>	壁面に付属クギで固定する際は、十分お気をつけてください。クギが体にささったり、金づちで指などをケガする危険があります。また、機器の破損にもお気をつけてください。

## 19. 警報器の取り付け方法④

### ●壁に取り付ける時-3

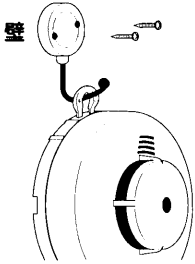
#### 手順①

ベースを警報器からはずし、ベースからフックを取ってフックの足をベースの外側から差し込んだ状態で、ベースと警報器を取り付けます。



#### 手順②

壁面の柱が通っている場所に市販の壁掛けフック等を強固に固定し、警報器をつけ下げてください。



### 警告

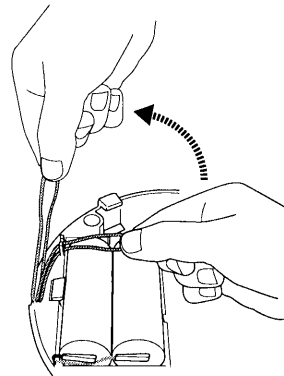
市販の壁掛けフックを使用する時は、ネジ式の壁掛けフックにしてください。壁掛けフックと壁とを両面テープ等で固定していると、フックごと落下する危険があります。またフックを取付面側に曲げないでください。警報器がフックからはずれて落下し、ケガをする危険があります。



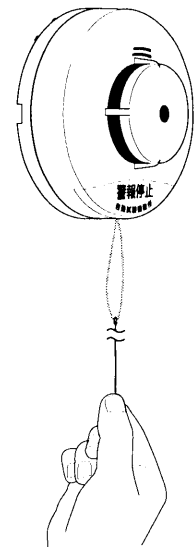
## 20. リングひもについて

天井や壁に取り付けた時にボタンが押せない場合は、図①の様に収納されているリングひもを出し、別途ひもを用意して、図②の様にリングひもと結んでご使用ください。

図①



図②



### 警告

機器を壁に取り付けてひもを結んで使用する場合は、必ず警報停止ボタンが下側になる事を確認してください。横向きなどで取り付けられていると、強くひもを引いた際に警報器が取り付けベースからはずれる危険があります。



## 21. 定期的なテストのお願い

・取り付け後は定期的に(1ヶ月に1度)ボタンを押して(またはリングひもを引く)警報器が正常に作動するかテストしてください。

### ●正常な時

・ボタンを押してから2秒程度で「ピーッ!ピーッ!」と警報音が鳴り始め、合わせて表示灯が点滅します。(ボタンを押している間継続します。)

### ●異常な時

・ボタンを押してから「ピッ」と約30秒間隔で警報音が鳴り合わせて表示灯が点滅し始めると電池がなくなっています。「ピッピッピッ」と約8秒間隔で警報音が鳴り、合わせて表示灯が点滅し始めると警報器の故障です。テストの時に何も音が鳴らない場合は電池が接続されていないか、警報音停止状態(煙を感知して警報を止めてから約5分間)になっています。  
・1週間以上留守にされたときは、警報器が正常に作動するかテストしてください。

### 警告

・テストの時、決してライターなどの炎を使用しないでください。警報器を壊すばかりでなく、火災の原因になります。  
・テストをする時は、安定した台に乗って行なってください。転倒・落下などの危険があります。



## 22. お手入れ方法

毎年1度は、中性洗剤に浸した布を十分に絞り、警報器の汚れを拭き取ってください。この際、煙流入口に触れない様、注意してください。

### 注意

警報器を水洗いしないでください。また、ベンジンやシンナーを使用しないでください。故障の原因になります。



## 23. 廃棄について

この警報器およびリチウム電池の廃棄については、各市町村で定められた廃棄方法に従ってください。

電池を廃棄する時は、電池を束ねているフィルムをはがさないでください。フィルムが破れていたリキズ等がある時は、フィルムの上から+極側と-極側を絶縁性テープで絶縁してください。さらに、電池のコネクタを絶縁性テープで電極が見えないように巻き、各市町村で定められた廃棄方法に従って「使用済みリチウム電池」として廃棄してください。

## 24. 仕様

型名	TKRG-10
種別	光電式住宅用防災警報器
鑑定型式番号	鑑住第17~25号
感知方式	煙式(光電式)
感度	2種
定格	DC6V、30mA
電源	専用リチウム電池 2CR17450E-R(K)-CH1 : 三洋電機 2CR17450-WK4 : 日立マクセル
電池有効期限	約10年間
音量	1mにて70dB以上
外形寸法	φ100mm×44mm
警報器質量	約115g(電池を含まず)
電池質量	約45g
移報出力容量	オープンコレクタ DC30V、50mA ※出力用の移報コネクタは別売
使用温度範囲	0℃~40℃
復旧	自己復旧方式

※仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。